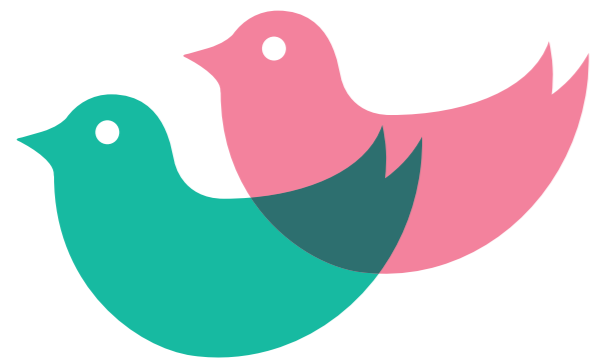


G R O W T O G E T H E R



知的・発達障害児と関わる人が
ともに学び合う、
「両育」のある社会へ。

りょういく

ryoiku.org

特定非営利活動法人両育わーど

ビジョン

知的・発達障害児と関わる人が
ともに学び合う、
「両育」のある社会へ。



りょういくとは

「療育（りょういく）」という言葉をご存知でしょうか。知的・発達障害児が、医療的な配慮のもと学ぶことにより成長し、社会的に自立することを目指して行われる後押しや支援を表す言葉です。一方、私たちが現場での関わりから実感した造語である「両育（りょういく）」という言葉は、子供だけが成長するのではなく、関わる人も、真剣に子供と向き合い、試行錯誤することで結果として学び、成長できるという概念を表す言葉です。

障害福祉や社会貢献には、垣根の高い印象があるかもしれませんが、より多くの方に少しでも関心をもっていただきたいと考えます。私たち両育わーどの「りょういく」サイトが、知的・発達障害児とみなさまが会える場として貢献できることを願っています。



参加する

「りょういく」が紹介するイベント*で知的・発達障害児と触れ合うことは、今まで気づかなかった新しい視点や感情と出会うきっかけになるでしょう。言葉以外のコミュニケーションがあること。無意識のうちにもっていた価値観があること。一方的にサポートするのではなく、子供と真剣に向き合うことでお互いに学び、成長できる。それに気づく頃には、以前よりずっと自由な自分になっているでしょう。

障害の有無を越えて、多様な人々が触れ合うイベントへの参加を心からお待ちしております。

*イベントにはボランティアとしての参加となり、内容は紹介先の福祉施設に準じます。

「りょういく」サイトのイベントページ：<http://ryoiku.org/events/>

イベント参加までの流れ



イベント参加者の声

“これまで、障害者と接する時は、「手を貸してあげる」という上から目線だった自分に気づかされました。イベント中はあっという間に時間が過ぎてしまったので、また参加したいです。
(24歳/女性)

“今まで障害者と接した事がなかったので、どこかで恐怖感をもっていましたが、きちんと向き合うことで、人と人として行動をとる事ができました。イベントに参加した施設の療育方針である「過度に甘やかさない」ことは、今後の子育ての教訓になりました。
(34歳/男性)

“長年営業畑で仕事を続けてきました。子供たちとのボランティアを通して、初めて建前のいらぬ場の心地よさを覚えました。また機会をつくって参加したいです。
(大手企業営業職 40代/男性)

りょういくレポート

福祉らしくないところに 惹かれて参加 伝えたことの1%でも 心に届いてほしい

元インストラクター (30代 女性)



ほんのちょっとの成長でも、それが嬉しい

親や職員さん以外の大人が やって来る。それだけで充分 ボランティアになると思います

陶芸教室運営 (60代 男性)



障害も年齢も様々な子供たち

福祉現場の非常勤講師として、運動を教えています。これまで療育に関わったことはありませんでしたが、求人広告に運動と音楽のできる人を探していると言われていたので、それなら私でもできるかなと思い応募しました。障害の程度はもちろん、年齢も小学生から高校生までいろんな子供がいるので、その子に合った運動を提案しています。意識して運動をしているか、指導員に着目できているか、集中できているか。その辺りを見極めることを大切にしています。中には「リラックスして目を閉じましょう」と言っても目を閉じられない子もいます。子供たちの気持ちを想像することが一番難しいですね。

子供たちに運動の楽しさを伝えたい

楽しく運動をしようとする、ゲーム性やルールを取り入れることになります。理解できる子供たちだととても盛り上がりますが、重度の障害をもつ子供に運動の効果や楽しさを伝えることはなかなか難しいです。でも、運動することを億劫に感じている子も、キャッチボールをしているときに一歩ずつ前に出てボールを取れるようになると、少しずつ楽しめるようになります。また、私とキャッチ

ボールをするときはゆるくボールを投げている子が、職員さんとなら全力で投げたりします。「そんなにできるんだ!」とうれい反面、少しさみしい(笑)のですが、いつか私も全力で楽しんでくれる日がくるのではないかと考えています。何より、「運動するって楽しい!」と思ってもらいたいんです。子供たちが一歩前に出るところが見たいですし、それが積み重なって、楽しいと思ってもらえたらうれしいですね。

子供たちの成長は一道一退

私は運動を中心に短い時間しか関わっていないので、学校やご家庭と比べれば子供たちには大した影響は与えていないと思うんです。彼らが変わるのは、環境が変わるとき。たとえば学年が上がって新しい先生になったり、弟や妹が生まれたときは、急に赤ちゃんのように振る舞ったりして、後退しているように感じる事もあります。これは健常のお子さんでもあることだと思いますが、こういう体験をすると、単純に成長とともに分かりやすくなくなっていくわけではないのだと実感します。でも、1年半働いてみて、長いスパンで子供たちを見つめると、大きな成長に改めて気づくことがあります。私と過ごした日々がほんの1%でも何かの支えになってくれたらうれしいですね。

もやもやに風穴をあけたかった

10年以上前から、福祉施設で陶芸の先生をしていました。ある時から、陶芸だけではなく、施設のボランティアとしても関わることにしました。その頃、当時高校生だった長男が家の中で暴れるようになって、親としての自信を失っていたんです。そこで、もやもやする気持ちに風穴をあげるように陶芸以外のことをやってみようと思ったんです。そして気がつけば9年もボランティアを続けています。施設には急に騒ぎ出す子がいたり、つらいのに笑ってしまう子がいて、私の予想を越



施設に行くたび、新しい発見があるんですよ。それが楽しくて続けているんです。

自分の行動を工夫すれば 相手の行動も変わっていく

会社員 (20代 男性)



るかにフォーカスして考えました。すると、Yちゃんの態度や振る舞いも変わってきました。日常生活では他人同士でもお互いにベースを合わせることはできますが、障害のある子に「こうして」「ああして」と言っても自分の思い通りにはなりません。相手の反応に一喜一憂するのではなく、自分の行動に集中できたことが印象に残っています。

自分の行動にフォーカスする

今回で2回目のボランティアになります。僕はYちゃんという中学1年生の女の子の担当になりました。障害の程度は中程度くらい。人と関わるのが好きな活発な子です。この日はお祭りのバザーの売り子をしました。僕がお客さんに「安いですよ」と呼び込みをすれば、Yちゃんも「安いですよ」と真似をしてがんばっていました。おつりのやりとりも上手にできていましたね。前回も仲良くなるのにかなり時間がかかりました。話しかけても「やだやだ」と言われてしまっ

ボランティアで価値観が変わった

あまりにも親子関係がこじれた時、息子は家を出ていきました。それからしばらく会ってなかったのですが、昨年、身内の葬式を機に少しずつ顔を合わせるようになりました。今でも上手くいっているとは言えませんよ(笑)。でも、

ボランティアをはじめてから、息子との関係にできるんだ、という発見があります。そして自分なりの結論が出たんです。過去のことを考え続けなくても何も変わらないのだから、もう自分を責めたり、原因を探し続けるのは辞めよう。こんな風に考え方を変えることができるのは、ボランティア活動が影響しているのかもしれない。

義務では続かない 楽しいから続けられる

仕事は基本的には自分ができることしかやらせてもらえませんよね。でも、ボランティアは、経験や専門知識がなくても挑戦させてもらえるんです。そこには、自分はこんなこと

もできるんだ、という発見があります。そして何よりも、施設に通い続けるうちに子供たちが自分のことを少しずつ覚えてくれることがうれいんです。目を合わせて挨拶してくれる。ただそれだけのことに心から感動できたから不思議です。9年も続いているのは、やっぱり楽しいからですね。義務では続きませんが、人の役に立ちたいと思ってボランティアに参加する人が多いのかもしれませんが、そんなに構えずとも良いと思っています。子供たちにとって、親や職員さん以外の大人がやってくること自体、良い刺激になりますから。ただ子供たちと楽しく過ごすだけでも、ボランティアとして充分意味があると思いますよ。

ですが、こここのボランティアにはマニュアルがないので最初は混乱しました。どう行動すべきか、基本的には自分で考えなければいけません。担当する子の障害の程度によって関係性も変わります。その分、自分で考える力が身につくと思います。

相手を変えるのではなく、背中を見せる

ぜひいろんな人にボランティアを体験してもらいたいですね。自分の行動を工夫すると相手の行動も変わるということを明確に体験できるいい機会だと思います。Yちゃんはうまくいかないことがあるとふてくされてその場に座ってしまっんです。そういうときはひたすら待ちます。そして、黙々と自分が働く姿を見せました。結局、自分が動いて背中を見て感じてもらうことしかできないのだと思います。でも、僕は本当は待つことが苦手なんです(笑)。「どんなリアクションをしてくれるかな?」と楽しむ心がけましたね。障害があっても健常者でも、一緒に作業をすることでお互いに主体性を育てることができると思います。またぜひ参加したいですね。



「人は変えられない」けれど、自分の行動を工夫すれば、相手の行動も変わります。目的意識を持って参加すると、結構学びがあるんじゃないでしょうか。



最終的には障害の有無を越え、 人々がともに学び合える社会を 実現していきたい

特定非営利活動法人両育わーど

しげみつ たかゆき
理事長 重光 喬之

私たち両育わーどは、知的・発達障害児及び育成者と彼らに関わる人が、ともに学び合える社会の実現に向けて活動しています。

私自身、十数年間、知的・発達障害児者へのボランティアを通して、彼らの生きる喜びや成長を見届けてきました。その彼らとの関わりから人生観に大きな影響を受け、「人も自分も嫌い」から「人も自分も好き」へと変化しました。同時に、実はボランティアをしていた私の方が、彼らから学ばされていたことに気づきました。この変化や気づきを「お互いに育つ」で「両育」と呼ぶことにしました。両育わーどでの活動を通して、社会へ「両育」による学びを伝え、子供たちの将来へ向けた自立の育成支援をサポートをしていきます。最終的には障害の有無を越え、人々がともに学び合える社会を実現していきたいと考えています。

知的・発達障害児とボランティアの交流を通じて、 豊かな社会を目指します

私たち両育わーどは、調布市内にある放課後等デイサービスを提供する福祉施設を中心に次の事業を行っています。

1. 交流事業

「りょういく」サイトの運用を通して、これまで障害福祉に縁のなかった方に興味・関心をもっといただくための情報と機会を提供しています。これにより、知的・発達障害児者と福祉施設職員、地域住民・学生・企業といった、さまざまな属性をもつ人々の間に交流が生まれます。その中でお互いの存在を認め、それぞれが生き生きと過ごすことで、より豊かな社会へ進んでいくことを目指しています。

2. 支援事業

求人採用や人材育成の改善提案や代行といった慢性的な人手不足を解決するための支援、さらに許認可申請や施設建設といった法改正に伴う業務、その他にも資金調達や新規事業立上げ、事業計画の策定などを通して施設をサポートし、ひいては子供たちへの間接的な支援を行っています。

3. アドボカシー事業

精神・身体・知的、成人・児童、介護などさまざまな分野が存在する福祉において、児童福祉施設の声はなかなか行政へ届きづらい状況にあります。そこで、知的・発達障害児への福祉現場の声を聞き、子供たちの育成環境向上のために、地方自治体や厚生労働省などへ働きかけるお手伝いをしています。



ご支援の
お願い

年々増加する知的・発達障害児に対して、育成(療育)の機会が足りません。
「両育」のある社会へ力をください

療育とは、知的・発達障害児の自立に向けた後押し・支援をする取り組みのことです。この療育サービスを提供する子供たちのための放課後施設(児童福祉法下の放課後等デイサービス提供施設)が、さまざまな要因により危機的状況にあります。私たち両育わーどは、これらの問題解決の糸口を探るため、「両育」をキーワードに支援を行っています。人々がお互いを認め、ともに学び、育ち合える社会の実現に向けて、ご支援をお願いいたします。

さまざまな支援方法をお選びいただけます

銀行 から	振込先口座 ▶三菱東京UFJ銀行 渋谷支店 135 普通 口座番号 0712658 特定非営利活動法人両育わーど ▶ゆうちょ銀行 店名〇一八 店番 018 普通 口座番号 3553143 特定非営利活動法人両育わーど
クレジット カード から	クレジットカードで支援ができます。継続的な支援と一回のみの支援が選べます。 クレジットカードからの寄付ページ: http://ryoiku.org/support/
WEB から gooddo	gooddo(グッドウ)は誰でも、今すぐ、簡単に無料で支援することができるソーシャルグッドプラットフォーム。毎日のクリックや「いいね」などのアクションが活動支援金となります。 「りょういく」サイト内リンク参照または「gooddo ryoiku」で検索
スマホ から がざして募金	<p>かざして募金^{※1}</p> <p>スマホから専用アプリを起動して、ロゴ画像に「かざす」だけ。簡単な操作で支援できます。^{※2}</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1. まずはアプリをダウンロード</p> <p>iOSはAppStore、AndroidはGoogle Playから</p> <p>かざして募金 で検索</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2. アプリを起動し、ロゴ画像にスマホをかざして画面をタッチ</p> <p>かざして募金</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3. 寄付金額を選択</p> <p>10,000円 5,000円 3,000円 1,000円 500円 100円</p> </div> </div> <p><small>※1 かざして募金では領収書の発行ができません。ご了承ください。 ※2 ソフトバンクをご利用の方は携帯電話料金とあわせてお支払いができます。ソフトバンク以外の方はクレジットカードでのお支払いとなります。</small></p>

両育わーど

特定非営利活動法人両育わーど
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-26-16 第5叶ビル5F co-ba shibuya 内

<http://ryoiku.org/>

当バンフレット及び平成26年度「りょういく」サイトの運営は、独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業の「発達障害児及び育成者と社会を結ぶ事業」として助成をいただいています。